

# 妙安寺だより 302号

## お彼岸

仏教の行事の大部分は、インド・中国から伝わってきたものですが、春と秋の彼岸会だけは、日本独特の仏教行事なのです。

昼と夜の長さがまったく同じである、春分の日と秋分の日を中にはさんだ一週間に、お寺に参拝して法話に耳を傾け、法要に参列し、墓参するのがお彼岸会なのです。

私たちは、毎日仏道の修行を続けなければならないと思いながらも、各自が仕事を持っているので、毎日、仏道修行に専念することは困難であります。

そこで、一定の期間を設けて、仏道修行の機縁を作る必要にせまられ、その期間は、農耕生活を主としているわが国では、農繁期を避け、一年のうちで一番気候の良い日でなければ効果がありません。

春の彼岸は、これから日一日と昼の時間が長くなり、桜の花もほどなく咲き誇るといった季節で、陽気な気分と希望を与えてくれる春分の前後一週間。

秋の彼岸は、うだるような暑さから開放され、暑い日ざしに照り付けられる昼にかわって、月の光と虫の声の美しい静かな夜が、次第に長くなり、人々を落ち着いた心境に誘ってくれる秋分の前後一週間が彼岸会にあてられたわけです。

一年のうちに、この季節を、特に定めて仏事をするようにしたのは、私たちの、先祖の深い思いやりがこめられていることを、知らなければなりません。

彼岸会には、日常生活を反省し、過去を追憶し、ひいては亡き故人を偲び、その遺徳を尊び、また、その短所を自戒

しなければなりません。

故人を偲ぶということは、過去を知ることであり、過去や現在を正しく見極めてこそ、未来に期待を持つことが出来るのです。

## 秋季お彼岸

## お施餓鬼法要

9月26日(土曜日)

午後1時より

お施餓鬼法要

正午より

お齋(オトキ)

午後2時より

法話

※9月20日・23日は、午前11時と午後2時に、住職がお寺にて読誦回向をしますので、御自由にお参り下さい。

※ソトバ供養御希望の方は、同封の申込書にて早めにお申し込み下さい。 1霊位 2,000円です

## 話の泉

### ◎風呂の教訓

ある人が酒屋を開業するにあたり、「どうすれば繁盛するだろうか」と一生懸命考えました。その時、小さい頃から両親や祖母に連れられて、お寺参りし、お説教でよく聞いた話を思い出しました。それは「風呂の教訓」というものでした。

風呂に入っているとき、お湯を自分の方へかきこむと、お湯は自分の体をよけて逃げてしまう。しかし、逆に湯を向こうの方へ押しやると、お湯は必ず自分の方へ戻ってくる。「これが菩薩の心、菩薩の行ないだ」という話であった。

男は、「うん、これだ」と思い、お客が一升のお酒を買いに来れば、一升一合やるようにした。一升を安売りすれば、組合から文句が出るが、余分にやるのだから文句を言われることはない。

そのお陰で店は繁盛し、大いに貯えを成し、それを元手にして工業を興した。そして、その後も機会あるごとに、多額の寄附を成し、自利を他利に運(めぐ)らし続けた。

これは、ホテルニューオータニの名でよく知られる、日本経済界の重鎮・大谷米太郎の若き日の話である。

※お盆の法話「仏説 桃太郎」の要約については、後日掲載致します。A4判に25行前後の簡条書きを話しそれを文章化するには時間がかかります。

合わせて、来年のお盆の演題 昔話シリーズ第2弾「仏説 浦島太郎」について、構想中です。

